毛吹草追加 上

中村俊定文庫
文庫 18
45
1

毛吹草追加題目録

春部

俊定藏

元日　若菜
白馬　子日
左義長　梅
鶯　霞
殘雪　春氷
雲雀　木目
柳　雲英
天花菜（付枝菜）　蕨
雲月　椿

桃　花
櫻　辛夷
海棠　木蓮華
躑躅　沈丁花
藤　蝶
牡　雨
燕　雲雀
雉子　春駒
鮎　櫻鯛
永日　雜春

早稲田大学

毛吹草進加上

春

元日

丁林の臣や八子とせとの武蔵　光好
春ハ松原や水千代の春　浦元
春の代乃ちきひろやかの縄　未得
年乃徳の京口をれやとる蚊　重方
門くれ松やよろひの行くえ人　重俊
春の春の門付の物売　良
まをとくまをとくの刀の縄　長治
いとくくの潜清幸沖の去　貞盛

中村俊定文庫

ゆつり葉ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]春哉　西元

けふ[illegible]や南瞻戊刑江戸の春　元綱

四[illegible]とぬや腰よ[illegible]ゑ[illegible]ら光[illegible]雲　玄札

誰ら滑し西よ日出ぬ[illegible]乃色　康井

うゑひぬや今日年[illegible]神かり　今市

伊[illegible]ら[illegible]春めけ[illegible]湖[illegible]　光有

戊刑江戸日[illegible]

戊[illegible]野は[illegible]辰[illegible]年[illegible]　重頼

年[illegible]乃沸[illegible]や一二三ケ日　敏雲

[illegible]はさけ[illegible]年[illegible]　安都

今日よりや[illegible]戊[illegible]　西武

年と日の西八比翼のきふ[illegible]　[illegible]

春とハ世上はまのみひきか　同

衣[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]の春　[illegible]

[illegible]の[illegible]書ハ[illegible]年か　[illegible]

四千乃[illegible]に

十とハ[illegible]小指ハ[illegible]ぬ[illegible]か　[illegible]方

[illegible]乃[illegible]ぬ[illegible]も自[illegible]か　[illegible]

門松や[illegible]乃[illegible]　同

[illegible]ま[illegible]ゑ[illegible]の去　[illegible]

年と月と日と[illegible]ゑ[illegible]乃姫か　同

戌の年なりきれて

書初文字や去るの雨乃花　重方

竹に寝ておくれば雪の花　重教

完の枝新志ん乃代めとせず　康年

かさり縄や呆乃つら庶代の春　令市

苔木もやいの水つるを乃乃　重教

若菜

鼓さらめんぐまぶかえのびん外　笑汁

春えんにてふの菜八まぶそなち外　好家

見も寄なを白あや若菜　重方

くゝたちのこゝろや春の若菜　同

若のひめ乃梅やこまり水若菜　重教

つむ洗濯さる春乃水若汁　宣雨

白馬

白馬にりん七草なあうかれ　嘉重

桐千を初のせめける白馬乃　徳美

子日

春すゝにめやる子日ぬ松　未乃

行末代例ちを初ん子日外　宗房

左義長

爆竹よわる去や乃ぬ　令市

[illegible]

梅

千句才一ゟ

実をうえて咲や一枝万梅花　久重

小野分白まさゝ以

一をもちて万ゟを知梅花ゟ　重賴

秋よりとさやゝ咲ゟ梅暦　重方

二月八梅の暦ゟ師走の風　不及

古木せし梅八万年暦ゟ　梅登

枝ゝなき梅をゝ三月の暦ゟ　久任

おくすむ木陰や思ひ日梅暦　[illegible]

梅八見ゟ雪ゟ寄ゟ日の花実ゟ　[illegible]

雪ゟ節ゟ梅ゟ梅の香　[illegible]

雪や紅葉梅ゟ樂の舞　近吉

梅や見雪ゟ[illegible]ゟ清ゟ花　[illegible]

古ゟ木ゟ[illegible]ゟ梅　長[illegible]

はゆるゟ一番ゟ咲ゟ梅　賀[illegible]

梅ゟ枝やゆるゟ雪ゟ[illegible]ゟ清　良重

[illegible]ゟ梅の白ゟ　春谷

短冊の白く梅ゟ枝や清ゟ　勝俊

垣ゟゆゟ梅や書[illegible]ゟ　[illegible]

梅の花さくらの花のさえよりて　三房
梅の花　ひとえ乃てかくる風か　成政
人々の人も法師の梅や花の下　之貞
梅の花　春は遅き花なれど　薩摩
花乃兄　春やつもる雪　月
天神の一乃式　やむれ兄　中行
連歌　梅の花　やむの兄　久任
そ人々雑俳の三つ花の兄　知之
雑俳　梅の笠　登庸
兄　梅乃笠　良和
はくを入て　梅　春　世為

梅　春やうひ旅いまいくつ八　義任
梅つゆ　梅つゆ　保女
かさ　梅乃つ　正有
梅風　梅の笠　道去
冬に　梅　常如
薫　梅花八　正愛
梅　梅　宣昌
雑俳　梅の白ひか　姫重
わたせ八　梅　正之
正梅乃　梅瀬の山　一志
紅のまわひやり　梅　貞如

先ひらけぬの帝は偏方梅　長信

鶯

えねの宮おもてなる梅や銀鶯　政辰
籠乃内の鶯は鶯や国果絵　主税
法花堂そなるに鶯は鶯静か　不及
うぐひすを伽法師の数に　光重
鶯に布施ものの絵よりけるの変　助音
鶯は鳴は音に似るの　安為
なるぬるに音の二夫り金鶯　文治
三夫の鳴い鶯は秀音か　重房

宝船月は鶯乃音は鶯は梅に　良和
鶯は明や いるく音の絵　元春
春風や鶯吉内乃上に菜　良生
鶯は笛さ人竹乃小枝に　教次
鶯や寺ぬる子を数を水音安　以庵
鶯の楽は走竹のそやしか　緑能

雁

判形の月日の下は云ふすこ　弁朗
八重家世をひろふるの衣か　市右
山くに雁を上せぬ家か　宗教

中裁（ちゅうたち）といふんあの衣の郎　梅盛
浮世ゑのなとこの衣のたぬい付　緑俊

冴る

消う世ゑ波のうしめよ雪女　吉和
いつくもき忘偶（ぐう）や雪佛　重昌
雪月よハ南無阿弥陀の宮よ偶　宗氏
冬にさる雪縁引（ひき）や濡の糸　未拡

春氷

別　醒井（さめがい）の醒井しますて

醒井ハ春氷へ雪解うすの水　徳嶺
春乃雪に殘（のこ）るさ帯の薄氷　重好

雪面

天道やくもをころさぬ花の面　宗義
雪面ハ花のおやつの木なれハ　重俊
花ますてバ面ふりせを紀日（ひより）和か　屋角
面ゝ咲て祝よ緩ゑや花の雪　未拡
雪面に人もうれしき花ん水　七氏

木目

狩面ハ木目と花のあいひ　未拡

目て人をころさん素の楓かな　主方
かゝき月の素の月の素の月　徳嘉

柳

風のゝて袖のわゝくき柳髪　春松
下風よふきあはぬひら柳髪　助音
なびきあそぶやゝ分柳かな　保友
雪をとく素や柳のさ柳ゝを　徳嘉
房京の柳をひろひ枝　同
糸柳池乃汐くみの縄哉　真道
鞠なりて人をとゝむる柳哉　道者
柳木乃ゝ枝ゝ柳哉　徳嘉

素草

注て見て書つゝてよ蘆草　長信
素の野や見もやゝ枯つゝ草　貞登
打せーと七夕花やし夕の垣　徳嘉
夢と苦ハ雑鋏なれやはゝ夕　宣為

せゝ蓮院と云まゝて

新鶯て素見や浮世素の花　主新
ゝゝりおろる月よゝや金魚哉　燕石
枝くハるさ一ゝ金魚哉　利重

天花菜 付板菜

玉笹とめや焼毋まつ花　不及

野ハらの毛乃笹ゝ玉筆　近衛

笹と木ゝ乃ハ二もとの板菜外　為忠

蕨

おもてる肱ゝいん蕨の子　為忠

めゝ蝶よ手枕する蕨外　元弘

石てゝ乃ハ岩乃ゝ乃ゝ蕨　保安

春月

月花ハ和光同塵乃眺ゝ　西知

月と花ゝうゝり気ゝ乃ゝ外　西民

ゝ乃ゝも霞ゝ乃ゝ乃ゝ月　西知

月乃姓ゝうゝゝ乃ゝ月夜外　貞慶

ゝ乃ゝ人乃ゝ乃ゝゝ乃ゝ乃ゝ月と花　西民

樓

花瓶ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ樓　静寂

散ゝ涙ハ竹乃ゝ乃ゝ樓　西行

咲ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ樓　近吉

ゆとくくねの梢や中二階　宗房
垣ハ梅のおもひ〻ひ〻う伊勢桜　惟友
花そあ〻実をハ思ハぬち桜　涼元

桃

膝乃上にかさやゝ四つ桃の酒　令市
酔醒るうゝや落花桃の酒　未白

花

花乃波よおくいく人の口　未白
花の坊の宮や深吉野山　文春

京さくさ言やむり此春の雨　涼元
打打ハ月の俳ものゝ白花　軍
恵とゝも苦ゝり句ゝ花の風　宗臣

千句才三

故川矢ゝ花乃ゝ和ゝと好ゝ　宗臣
花ゝ撒流ゝ月ゝ月ゝ良任
貞女ゝ月ゝ花ゝハ二ゝ乃　未白
花ゝ風や消ゝ〻く千に姫ゝ　京　西勝
苔ゝ乃ゝ人ゝ康ゝ猫ゝ　久任
智者ゝ〻と惑ゝ花の恵ゝ　義保
仁者ゝや恋ゝ花の風　宗臣

花あれハよくとのこるわ〳〵の言葉　拙盛
聞よつゝさ海さるそ花と云の風　言勝
激よとち湯よひらくや花軍　不及
落花枝よくやせもとせよ花軍　紫貞
ひらくれと光つゝ御乃花軍　紫雲
へくとくく法ハ昭天の花の只　義俊
拙山せよ月ハ年さゝり花盛　一貞
七言葉や水よ宮法乃花の法　宗圭
立ちやとあさぬ花乃涙　宗祐
花錢乃眺とゝやけの垣　宗久
三吉聖や面さも面へき花盛　宗昌

花ハ言人ハ木ゝ言ぬ　如改
杉花の白ひやふむ独ひ口　宗次
枝さりに花ぬり花や図軍　信統
中陣ハ吉聖なるゝ花軍　威庸
咲と言ぬ　小刀大樹花乃面　重方
月花ハ言ぬ　夜乃のぬ　改辰
人ゝ乃乃月やゝす花の夜　重好
花ちに降ぬけさす風乃　宗祐
三寸乃吉や詞の花ぬ　宗春
花乃枝や言の柳よ言ぬ　文庸
杉るゝの礼をハ花の今下　紫雲

面影や吟してあころ花のさま　西良
世の人の花をんやかむてろ　意あ
半日は各盃てのめ花ん所　良任
黄昏の錦と袈裟の苔衣　政云
打込て小袖世てや夏の松　威庸

初夏

初夏あやうすみれ合　主孔
鼓音や雲の雲間の花軍　空存

小野万句

花や是一切経の皆冠　月
そろハ風のをかけら花の宴　月
蕚をけば走人乳そさ〻ぬ花冠　まあ
半日は賓人ふし花のあと　月
炉風るあ月ひるる花軍　月
雲花の出張るれや花の雪　月
梅雨ハ下の紅ぶ雲はれ花ん　月
人をとかれ初の花乃宿ぬ　西良
風をかせ強や花乃軍　月
花をさらるまつせを義を云　月
あるはれ思ひ引あり花の風　月
市ハ行る山ゆ雲花の雲　宣安
たまるる前とるれや花の風　西甫

さらぬ春過てと花とハ名乃面羽ハ　京房
そ又あや沖ハ強敵花の風　市右
花乃人ゆと高くや馬てと去ぬ　俊宗知
花乃ぬよ知ぬ桜の色　京利
ひらゆるこの手ハ初の花乃ハ　宗長
花の面らゆ乃ハ陰ゆ加ハ　京房

桜

是膝や淀合はら桜形　京利
らゆ花とかゆ名や桜町　保安

桜田乃傍新八吉野法師　政辰
乃人てゆよとら是曳の山桜　俊宗知
雲とみるひが目さへ山桜　不及
もどりまや沙へ是川の山桜　盛庸
桜さ紀の茅乃岳や安禄山　保安
桜さ紀乃桜の陰や花清文　宗安
花や宮とゆらそつ宮武桜　宗祐
せ面にらゆ枝くきりがやつれ　宗房
四花月らゆやの花のうち風　政辰
四花きてゆれぬ枝やま女宮　長重
吹めるハ宮風や四人桜　市右

梅八花乃兄よ赤八咲さて　月
西ゝ行八新よかりう咲梅　去来
七ちを咲や地祢の保物梅　保友
入て信ゝ人ゝなるや保物梅　月
芳比吉や祢ぐら系保物梅　立圃
初ゝやるとりり乃仕り保物梅　宗之
火梅を山乃狼の煙ゝ花軍　不及
火梅ゝ廉衣似とあらぬ人ゝ　月
火梅乃蒼ゝ丁るやらか　元与
塩竈の花ゝ色ゝ鳴ゝ　去来
乙ゝ人ゝ陰ゝまぬ沢こむ鴻梅　友我

花ゝ身をすてゝ人ゝ深梅か　元隆
月のもゝ本ゝ宮ゝ郭梅　近吉
白雪をこゝろつゝ風ゝ家梅　能宗
面ゝ人ゝ風をとゝ郭梅　去来
花の名ゝ薄ゝ郭梅　月
あつまゝ宮方へおつる郭梅　彦寧

弥人極ゝ拾ゝ云ゝ

弥ゝよたゝて行ゝ郭梅　能宗
咲ゝて行ゝ郭梅　利貞
花乃木ゝ本ゝ普賢象　去来
さけと咲ゝ仏ゝ絵ゝ普賢像　徐祐

咲花や鼠ハ仏の普賢菩薩　保友

ゆるされハ沼に咲ける普賢菩薩　定方

花の奥も菩薩のごとし普賢菩薩　不及

普賢菩薩ハ指や矢人参花軍　重雅

奥山乃奥のもしを梅　西良

花車半ばひけくや連撥　浦元

辛夷

月乃ゆとなら谷よりきこふ舟　弘流

数陰や実葉ばかりを　[illegible]

海棠

海棠乃落花ハねりころひ　不及

海棠ハ殺ぬ[illegible]ちぬ花ハ　重方

海棠やねりんとそく花の紅　未知

未蓮花

時風を乗くなるや未蓮花　未知

鬱蹟

ゆるく咲て黄ハ初もつ　康年

手ハ殺ハ楊殺の花の併つし　玄礼

はなれ木に竹の根つく　定之
わが宿の一人の松の葉ちるを　貞義
あられぬや庵のつまの紅葉　宗方

沈丁花

さいかちの花やうしの角沈丁花　梅盛
木乃もとにわらやの沈丁花　東乃

藤

藤棚や沖風よりの田子の庸　好家
すれ違ふまうらの藤　雅安

藤乃棚や二階二階海浪　喜安
藤の松人に香まくる丈陰　令巾
ぶらり藤ぶらりの陰をすんぶ藤　元也
出て殺す藤乃棚　中井　東好
ぶらり藤も咲よりつるやと蔦　之雄
男陰さて女松よりかる藤の花　梅盛
ひとり藤乳よりぬぬ花の五兵　真重

蝶

はれつるさつまも蝶ちれ蝶　近去
流れいつまの今きかつり蝶の詩　登庸

[illegible]

花のもとへ見やまと蝶の群　遠川

まふ蝶い[illegible]こと[illegible]役ちゑ　[illegible]

咲花の中へ[illegible]ゆきて　[illegible]

蛙

播川乃百首より　[illegible]蛙　[illegible]

水清きや一村面へ[illegible]蛙　[illegible]

[illegible]　[illegible]

水元よ[illegible]ふ[illegible]蛙　[illegible]

蛙之一声やうれしみ　[illegible]

軍まけて辞世の[illegible]乃蛙　[illegible]

播川の蛙軍ハ[illegible]ちるか　月

[illegible]　[illegible]

氏[illegible]乃蛙　重[illegible]

帰鴈

ゆく水乃流へ[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　好古

[illegible]　輝代

[illegible]　[illegible]

[illegible]ていとなみ　[illegible]の　政辰
[illegible]根乃腰の[illegible]　[illegible]　月
[illegible]の衣[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

燕

[illegible]の巣をあるじとし　[illegible]
[illegible]乃書よりくかつやつらめ　[illegible]

雲雀

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

まく麻もあるこ雲雀うんかな　[illegible]

雉子

くひなせはきのこのかへ　光重
人ゝ又汁の書こふ雉子うれ　[illegible]
殿乃[illegible]　[illegible]　月
野と山と[illegible]　不及
あいとしはしの雉子　[illegible]

春部云

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

鮒

水ゐハ鮒くむ人乃こゝろかな　未白

人心くゝそゝ汁の鮒魚　松魚

心をもへて小鮒やすひむ　宗春

梅朝

庭下(ゑんした)ぬるゝ花さく朝　未白

教てのこゝ人かゝらん梅朝　宗和

海岸かけてうかゝ梅朝　歳

永日

詩ゝのへられぬ日の永さかな　未白

三月晝

春日かゝ旋(めぐ)りけぬ昼　今市

雜春

おわやきゝ私るゝぬ春宴　宗安

山ハ屏風ゝ花梅や雑事　歳之

梅の葉ゝ春ゝすわ汁味(さくび)　歳和

沈別亜よの宿ゆて

佐保姫も亜あ亜よ乃宿の春　同

鮒の春や山吹ひ巻ハ裾(のこぎり)　同

始てあひまいらせけるの迄
その年月日をひきたるを
めくりあはせて今年や二十年餘
於茂橋寺の云ふ
橋寺は云や薩乃る　保安
集るや申月成涅槃像　撰
ねむりのひの佛の別世　運代
廣の角もおとこ法二月書　仏云
廣の角やおちてもあつて　書
三月三日
出仏の海は云や法書乃知石　名翁

蛤やそ行云の塩年殊　題
麻よりも梓よつる心遊　俳
わとゝ水云ひの蓮の蓮　西記
宮より西をもつ捨て
わとゝのつゝまつり
刻は蘭の薫の宮殿　宣房
桑ハむしかぐは早速　源元
節水りかゝ〳〵乃板貝　宣

毛詩草木疏卷第二目録

夏郭

更衣　餘花
新樹　苕枫
卯花　蕤花
杜舟　苟菜
杜若　石竹
百合　葵
麦人草　瞿麦
夏苧花　槐
梔子　郭公

水鶏　鵜飼
蛍　蚊
蟬　麻子
葛蒲　粽
水草花　五月雨 付梅雨
青梅　若竹
早苗　夏月
短夜　祭
氷室　一番酒
凡付 苦子 小角豆　夕顔
晝貝　蓮

白雨　扇
納涼　清水結
泉　沸稜
雜夏

夏

更衣

丸茅をやわらせ衣かへ　言礼

はつ〳〵ゝもしるやゝ花の衣　俊之

餘花

連中の好士を尋ねて

言礼　茂るまゝ奥も花の下もと　之春

木ゝからぬ夏の花　良武

新樹

をのつからの花の枝やきり立　不及
下荷や色もあけぼの立　宗祇
風のにほふ夕ぐれ水に咲り　宗安
夏山人て義材の立り　宗祇
夏りてくれ川流乃柳　義材の元
とも和とも色やいとん立　宗長

若楓

紅葉の重ね夢の中　宗長

卯花

あるかの木ねの笠根乃木　宗長
おりもせしと花よ礼もなし　宗祇
卯の花の山の山の風乃　牧老

蛍花

花と紛れもそうんさる蛍　宗祇

杜丹

乳菜よ神農宮寺　良和
いけとるは花ひらいろ杜丹　同
写絵ハつくるんなれや花の王　宗祇

苟菜

苟菜花や名のるハ二階堂　春行

苟菜乃二階よ家やなりとわ　西甫

苟菜の塩や椒(しんし)三十二階屋　立固

花もらふ人ハ誰やく釈やく　迂去

杜若

三河路乃さかりの杜若　宗房

石竹　付撫子

人をとめ世ぢらく撫子と　春花

山かつ人誰ゆ月付乃行　迂去

咲ぬ比世ぢらく石竹や花曙　俳言

なく虫と咲や双云乃竹　恍云

撫子をそだてハんはてしなく　双双

百合草

さく咲やねつひもゝ乃車ゆり　良

人そのゝやうて久乃車百合　宝

百合花や火宅を知ら車百合　春花

百合付て胸しそ乃く車百合　宗房

鬼百合の人丸ろ猛火や花の色　一心
鬼百合や切まとり来ぬれ　重好

葵

葵すや所あるそ事百合　素行
二葉ずもや賀茂三葵草　松意

美人草

小野に咲く町の新美人草　素行
西安寺や入てよろこん美人草　定房
切て入る尼外無へも美人草　言昌

遠郷游子

人丸に通ふ町り美人草　道古

眼投

咲ちる涙ありて夕顔　素行

夏菊の花

咲ちるも乃起い牧菊を接穂　筑計
たらやくや花日てりはぐ笑月
野を人れい多そ黄の野菊　素行

構

二候ハ行ちのまろえ　元成

梔子

まつ風乃音も　牧春

郭公

待も来ぬ物なれば待ぬ　重好

声をたてよ人をもうつ時　道吉

待人やつりぶねの郭公　重陳

人口ようてひけよ子規　白民

ぶんこを薄一種の花にて　元礼

詳せをハ筋の弱くはなる　康年

待人や寝いて寝へ時ハ　命市

なれ雄の作ふと行ふ時ハ　保友

伝吉の沖出のうそ

竹やいうふうのそ耳ハ　元茂

脚の脚ハ見やうら時ハ　路豆

竹いうばハ三ちうへ郭公　紫雲

ひるゝやの雲乃旅せよハ　義風

おりへて我よるけうや子規　支雲

山ハ色そちがゑ空より郭公　元梅

冥途へもかのふといふや仏きく　保友
ついてゆく人百万もくるけり　收春

山野すて

新内乃まつらひめさや部云　重好

千日前

このひさいかたや短歌部云　重貞
普天乃下率土乃内やけり　光如
なのこゝろ人あ鶯よる知　奥方
ゆきて人ゝ物やいきあるる知　保友
装束ゝりあやとあけり　而知

群のあやゝ蜀の錦部云　春行
る知ちや天人の一よのきり　宇治
をきけ出貴よりも部云　宇治
まつ程ゝ乃清水所る　佐元
仏人乃絵乃ゝ部云　慶岡
武の家王孫ゝけり部云　而知
小野とて内ゝ人やたゝ時る　燕石
るくなけびつりとする知と　不及
なまれ物やそ一ア武もとに　光重
なるるぬこや去あの二と知　而良
とゝぬゝ乃ゝ秋の夕ゝ方と知　重好

杜鵑面影やなつのふさくめ　まれ

庵の夕ふくひとなきくはるる　九条

水鶏

口たくくみ鶏に水鶏あわれ　賀庸

鍬ぶりたる水鶏雑炊　春色

物觀

後世わらんしなせるの人物魂　文路

螢

螢火乃藻〳〵如可見　言礼

酔もせて内に乱るる螢　熊笑

音導に流れ新の形ら　蓮この乱　月

水ぐに渡せる人せめる　重方

初て垂蘭よ火をとる　助考

鐵鬼ゐて水火とる　夕前

螢とる人や火ぎ〳〵水せて　一言

乃ち乱ハ行るの飛田　京生

ゆげさあ月やわるる　久任

苦火ハ見ぐ乱ひとり　辛月

蛍火の一すさきや夏やしき　蛍庸

同一穴の狐ゑ河よとふ蛍　定昌

蚊屋よりの蛍や戸の焼篝　一貞

蛍もひとりそくるれや竹の内　素行

蛍火い石仏ゑ沖出るか　蛍

蛍火を芦間とな見紅葉　能文

蚊

蚊舞ふ蚊はゆら立ち軒端　長吉

蚊柱をけつる蚊ゆりかんぬき　素行

蚊柱ゑ舞ふ蚊もそそ文の乱　海女

蚊柱の杜山ゑ出るまや藪の中　重種

ぶんくはをの蚊乃字ゑ蚊ゆ　多翁

うたねや蚊ゑ働くうゑ牙法　改辰

そばそうや寝りておつる抜蚊　素行

蝉

蝉あらあ伊布それや蝉衣　素行

蝉ハ生ゑ言ようつそもあれ　素行

蝉楽ち庶文ひとく蝉の琴　定昌

かまきりの花枯つくきや蜂の子　祇巴

木こだちの方丈集る蜂の子　未白

椿をば河内乃亭やせられ蚤　也仁

庫子

とりて色をて庫子の庫子や冒結　未白

菖蒲

人根もてい人人菖蒲哉　麺代

ぬけ殻の菖蒲刀ぶ　梅盛

あやめりぬまくさらの長ぶ　俊示

きぶり

芝もちや文天の菖蒲湯後　点登

粽

ちまきとはちまきの粽　近吉

夜前そ枝ひまの芦粽　也仁

一本のさ粽とそをゆめて

はなしてや実一ぱいの笹粽　令市

水草花

うれまの花菖蒲やはなれ　政辰

水のあやをあやりとや花のひる庭　主好

五月雨付梅雨

世を海に雨年とふる五月雨　長治

ひとしもぬれて涼しさいとふ　正知

五月雨ふるめ今やあの塩　まさ

五月雨に天下一河のうるる　[illegible]

雲収晴て五月雨ひかく日和　清元

五月雨に寝入る時乃ふ　清政

五月雨の雲に月の出る夜　重昌

五月雨やあり陰ふる月見　惣交

五月雨に月ふる[illegible]　保女

五月雨に毎日厚已わり　輝代

五月雨に出ひきく水ふる　惣交

雲野より下る緑有梅の雨　まさ

青梅

花を今こしかきぬ梅法師　まさ

何紛て塩塩漬とく梅し　惣交

球場とや酢性とやいろん梅法　月

若竹

世づきてやそとそしてもよ紀安子　作　元綱

盆のつくハ養子うゑ今年竹　未詳

おうゝ人うゑやもんえのひ竹　貞之

竹乃子はてくるいおされんす　光広

なりハ成りハ竹乃編笠　宗雄

身を抗くる捨め敷竹の葉　宣安

竹の子や敷うゝ出て拵の元　子敬

ひ竹乃子にてゑるゑ竹葉所　宗教

竹乃子をぬとむや敷よ剛の拍　宣安

早苗

万民の拵て飢ぬハ子ゑ南方　三重

夏月

月ハかゑめ風ハ世界乃所式　貞之

天の原に砌乃ゑうゑの月　路也

偽言と汗とひとつきの月　月

明ゑ乃人の涼ゑのんゑゑ芽　子昌

涼風ハ帆ゑ一船ゑゑ乃月　架也

月の所ゑゑ敷と月ゑ　能之

短夜

夏の夜いきてこそ有るべき寝　良重

夜乃夜は夜とは夜人る間か　梅盛

祭

くくりくくりふりかの競馬の競馬　貞盛

まけあるはそなやや競馬　良和

冨士手りかひちやゝ高の夜　不及

はなかふ京を祇園の夜今　盛宗

神力や山をうつる祇園　同

祇園の祭を固をいく色る　久仕

祇園を云い山くわつき時うる　良和

祇園を云ふやうや西うを山　盛庸

氷室

千白退かよ

ひえてゝ氷室の氷室の氷室　梅盛

氷室ふ手の氷室の氷室　盛宗

陸奥しいそやゝの氷餅　歌也

腹の皮もそう祇園や氷餅　玄九

一夜酒

月乃ものなとのまちやゝ酒　良和

瓜

付 茄子 小角豆

名所のあふひやこうりの玉茎瓜　清元
打せあやこうりの玉茎の花の姿　常磐
瓜をうつといそやこまれ瓜　俊ふ
姫瓜や瓜子の玉つゝり屑　陸成
茶今いるゝねとすゝの茄子　文政
茄子とてとひぎ焼やすれ油　亭有
独活よだんぐゝ筋の小角豆　蘆元

夕顔

夕顔や所も嵯峨を見そこなふ　真宣
をのれや垣ゆふの花つる　正秀
白瓜とんゝ夕顔乃年月　清元
夕顔や花に蛍の紙燭ゝ　正信

昼顔

昼顔や照日さうり花笠　永和
昼顔ゝ家をの世と年月　今市

蓮

蓮池や中将姫のをごけゝ　永童

水乃中に咲や浪ぬ佐菖蒲　春枝
蓑の筋ハ長くゆらめくちから　宝野

退去
夢や金紙張りぐ佐ぬ菖蒲　文枝
釈迦や色法の蓮の花の美人　西次

白雨

夕ちふく神の御剣　不及
ぬる程つる夕ちに地ハ濡れ　春居
夕ちをと紙きぬ蓑ハ忘れ　改忠
夕たちよ初ん〻ぬ雷ハ　ゼ元

夕ちふく月の海ハ　忠光
夕ちハ田よ去ぬ乃刀ハ　南外
夕ハ町やハ海と女川　似雲
夕たちよ不ぬ紙ハ　一仲

扇

たあるふ法ぬ雪ハ扇　重方
扇ハを法乃ちゝやハ京者　春居
風の舞や扇の神乃法滝宣　豊庸
ゆ乃地乃浦風ゝ扇ハ　如故
見き月しかの〻ぬ雪ハ　西次

扇まわや色てそ風の秋軍　令市

あらくつよ扇の風ゝまよひ　芝仁

河内さ秋しめよ涼めゝ扇の　如故

涼さ秋者ゝ人のうちとが　義康

はらはく腰もとらぬ扇　素行

冨士を絵ゝ駿河感や扇　元春

納涼

風のまよひ涼やゝ夕涼し　素行

近き井ゝ清つ屋夜琴　清故

千自市文

清水

あ川きれゝ清水　素行

こゝろめを夏の涼樓清水　主方

夏乃水ゝ緑を結ぶ秋の風　主高

泉

涼さや河内泉の西堺　素行

ゝん
賞夫を書ゝとる法水　貞義

涼さの宿や立む記南き　月

涼舟ゝ吹て名ゝや見そゝ人　方故

凍きい実泉旅の膳引　仙雲

沸騰

住吉の板よる堤まうりて

南風小さと西にあらぬ色もとゝ　宝

夜おけ方そゝ川の夜水　令市

雑夏

蝿を打こゝろ〻〻櫻桐の葉陰　可春

跳びやすきうゝの花盛　宝

栗の花を

西乃木も花をけりて　仙雲

一作家も庵さと立のゝ梅盛　梅盛

たゆるゝ山さるゝよ松茸　西良

夜きてゝ〻ひゝる富士の山　良宝

惟子の地もあけひゝやすきし　懸正

夜の月八寄弓とゝぬ金　宝

十月といえん月の月れ　可春

苔ゝきゝ山やすきゝ人ゝ　西知